

<医師用>

※主治医様 下記太枠内を御記入願います。

<b>登園許可証明書</b>	
いまいづみ幼稚園 園長殿	
クラス	園児氏名
病名 「 _____ 」	
_____ 年 _____ 月 _____ 日から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。	
_____ 年 _____ 月 _____ 日	
医療機関名 _____	
医 師 名 _____	印またはサイン _____

幼稚園は幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで子どもたちが快適に生活できるよう、下記の感染症について登園許可証明書の提出をお願いします。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での幼稚園生活が可能な状態となってからの登園となるようにご配慮ください。

○ 医師が記入した意見書が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ ※「インフルエンザ罹患証明書」は医療機関にあります	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した翌日から5日を経過し、かつ解熱した翌日から3日を経過するまで ※上記の登園許可証は不要（※左記参照）
風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発しん出現1～2日前からかさぶた形成まで	すべての発しんがかさぶたになってから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染の恐れがないと認められるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから ※アデノウイルスと診断された際は、プール熱かどうか主治医に確認してください。
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（医師に指示に従い、抗菌薬を決められた期間服用し治療が終了するまで）
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認めるまで

※インフルエンザのみ「インフルエンザ罹患証明書」を医療機関にて記入してもらいます。

（用紙は医療機関にあります）

<保護者用>

登園の際には、下記の登園届の提出をお願いいたします。

なお、登園のめやすは、子どもの全身状態が良好であることが基準となります。

<b>登 園 届 (保護者記入)</b>		
<u>いまいづみ幼稚園 園長殿</u>		
<u>クラス</u>		<u>園児氏名</u>
病名『		』と診断され、
年 月 日	医療機関名【	】
	(医療機関連絡先： - - )	において
病状が回復し、集団生活に支障がない状態と判断されましたので登園いたします。		
<u>保護者名</u>		<u>印又はサイン</u>

幼稚園は、幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行をできるだ防ぐことはもちろん、子どもたちが一日快適に生活できることが大切です。

幼稚園児がよくかかる下記の感染症については、登園のめやすを参考に、かかりつけの医師の診断に従い、登園届の提出をお願いいたします。なお、幼稚園での集団生活に適応できる状態に回復してから登園するようにご配慮ください。

○医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発生した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(リンゴ病)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと ※日光の刺激により、経過が長引く場合があります。園では外遊びなど活動が避けられませんので、家庭保育可能な方はご協力をお願いします。
ウイルス性胃腸炎(ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんがかさぶたになっていること
突発性発疹		解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと

この書類は  
ご家庭でコピーをして  
お使いください